



●Answer

沖繩市・コザ山仁王院 球陽寺 前住職
帰依 龍照(きえ りゅうしょう)

Q

母の家には後継ぎが
いません。父の家の
墓の左隣に母の家の墓を
造っています。沖縄の風習
のプロの方から「墓が近ず
ざるから、両方の家系が混
ざり合っている」と注意さ
れました。旧暦七夕の墓掃
除をいつも同時にしている
のが原因だとも言われまし
た。建て替えなさいとのこ
とですが、その必要が本当
にあるのでしょうか？
(那覇市・Gさん・60代・男性)

A

Gさん家では、お母さ
ん方のウヤファーフ
ジが無縁仏にならないよう、
いつまでも一緒に管理がで
きるよう、お父さん方の隣に
お母さん方のお墓を造られ
たのでしうね。これは、後
継者不在に対するとでも素
晴らしい現代的なジブン
だと思えます。

一方、沖縄の風習のプロの
方がおっしゃる「両方の家系
が混ざり合っている」とは、
沖縄の禁忌の一つ『タチーマ
ジクイ(他系(家)混合)』のこ
とをご指摘されているのだ
と思えます。

タチーマジクイとは

沖縄(特に沖縄本島および
周辺離島)では、トートー
メーやお墓に、お父さん方の
家系(自系)以外の人(他の家
系(他系))を混ぜ込んでウン
チケー(案内)してはいけな
いという、タチーマジクイ
(他系(家)混合)の考え方が
あります。

これは、家系だけではなく、
名字が違って問題となる
ことがあります。実際に、こ
のようなことはあり得ませ
んが、「名字の違う人を同じ
トートーメーにウンチケー
すると、グソーで大ゲンカを
する」というご意見も、ある
意味、タチーマジクイを未然
に防ぐアドバイスなのかも
しれませんね。

今回、Gさんからのご相談
では、お墓の立地条件からし
て、お父さん方にお母さん方
の家系が混ざり込んでいる
というタチーマジクイには
該当しづらいと考えられま
すのでご安心ください。

アジクワイバカ

その理由は、まず、「父の
家の墓の左隣に母の家の墓
がある」という点がポイント
です。つまり、お父さん方
とお母さん方が別々のお墓
ということ、双方の家系
同士が混ざり込んでいると
は考えませんので、タチー
マジクイではないというこ
とになります。当時、タチー
マジクイになることを懸念
され、そうならないよう
別々に造られたのではない
かと推測できます。

また、「左隣に母の家の
墓」があるということは、
「父の家の墓」をグソーヌヒ
ジャイ(正面)に向かって右
側、ウヤファーフジからみ
て左側という上座に造ら
れ、「母の家の墓」をグソー
ヌジデイという下座に造
られているということにな

ります。
これは、沖縄のしきたり
の上級編の考え方で、お父
さん方を上座に、お母さん
方を下座にすることに、
お母さん方の次の後継者が
現れるまでのアジクワイバ
カ(預かり墓)として、お父
さん方が一時的に預かって
いることにするという素晴
らしい是正方法です。アジ
クワイバカは、たしかにタ
チー(他系)であり、名字も
違いますが、姻族関係であ
ることから、特例として、沖
縄ではタチーマジクイとは
いわない暗黙の了解がある
といえます。

「両方の家系が混ざり合っ
ている」とのタチーマジク
イのご指摘には、「トウジカ
タヌ(妻(母)方)のアジクワ
イバカです」とお答えいた
だければ、先生もご理解く
ださるのではと思えます。

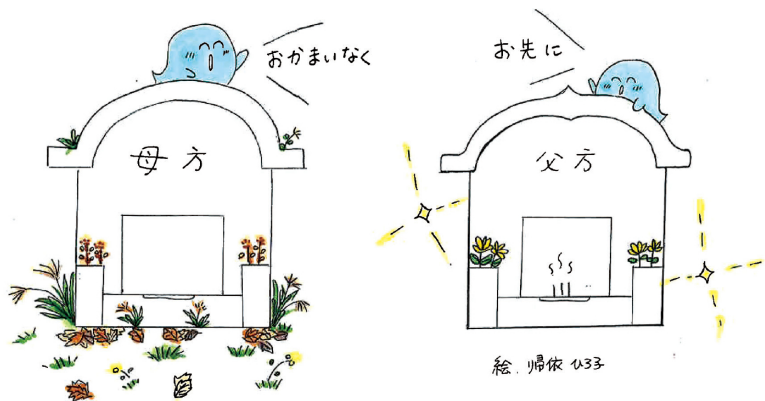
アジクワイバカでの 建て替えは 必要なし

また、「旧暦七夕の墓
掃除をいつも同時にし
ているのが原因」とのご
指摘には、上座にあたる
お父さん方のお墓から
七夕の墓掃除を始め、続
いてお母さん方の墓掃
除に移るという順序を
重んじていますので同
時とはいえないでしょ
う。お父さん方をしっか
り敬っていることにも
なり、家系も混ざり込ん
でいないため、ことさら

建て替える必要はないかと
思います。

沖縄では、このアジクワ
イバカやアジクワイグワン
ス(預かり仏壇(トートー
メー))を預かることに期限
がありませんので、お父さ
ん方のご縁のある方々で無
理をせず、できる範囲で、今
後もお母さん方の旧暦七夕
の墓掃除を継続していただ
ければと思います。

Gさん、沖縄の風習のプ
ロの方には、タチーマジク
イとアジクワイバカを知る
機会をいただいたことに感
謝しつつ、お父さん方とお
母さん方、ご両家のウヤ
ファーフジ、双方が寂しい
思いをすることのない、と
ても心温まるご供養ができて
いることに自信を持って
ください。



絵. 帰依 133

帰依 龍照(きえ りゅうしょう)

1968年岡山県出身(52歳)／学歴:岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒／
専門分野:哲学(宗教哲学)／コザ山仁王院 球陽寺(京都創建・正嘉2(1258)年[鎌倉時代]、沖縄
移転・昭和36(1961)年)・第18代住職／沖縄県宗教研究会・理事長／沖縄県内にて年間多数の住
宅・墓の起工式(地鎮祭)を担当しつつ、行政・企業・学校における「琉球・沖縄のしきたり」に関する講
演活動を行う。娘1人と息子3人の父親。

【質問をお寄せください】年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に
思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編
集室 年中行事Q & A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。